玉野市立八浜中学校

生徒数　１６３名　・学級数　７学級　・教職員数　２３名（平成２７年１月１６日現在）

○取組実践のキーワード

学力向上、人間力育成、家庭・地域との連携

○標題（研究主題）

「学力向上と人間力育成を目指した学校づくり」～家庭や地域との連携を目指して～

○取組を始めた経緯

比較的落ち着いた学校生活を送っている。しかし、学習に対する意欲はそれほど高くなく、家庭においてはテレビやＤＶＤの視聴、ゲーム、パソコンやスマートフォンによるインターネットやメールなどに多くの時間を費やし、十分な家庭学習ができていない生徒も多く見受けられる。そこで、生徒がより積極的に学習に取り組む環境づくりが急務と考え、学校の授業の改善、家庭学習を含めた学習習慣の定着、さらには、家庭・地域と連携した人間性豊かな生徒の育成を目指した学校づくりを行うことにした。

○取組の実施体制

全教員が学力向上部会と地域連携部会の２部会に分かれ、定期的に校内研修を計画し、授業研究や研究協議を行って研修を深めるようにしている。また、本校は玉野市教育委員会から研究指定を受けており、玉野市教育委員会の指導も受けながら研究を進めている。

○学力向上に向けた具体的な取組

平成２５年度から、有識者を招き「教えて考えさせる授業」の考え方を導入し、多くの教員が先進校における研究会やセミナーに参加して研修を重ねてきた。また、その成果を校内研修で全教員に広めたり、外部講師に招いて校内研修を実施したりして、その考え方について理解を深め、各教科で授業実践を積み重ね、「どの子にもわかりやすく、どの子も楽しく取り組める」授業を目指して取り組んできた。

この取組によって、生徒が落ち着いて授業を受ける態勢が整い始め、成果が現れてきている。本年度も引き続きこの取組を進め、校内の授業研修だけでなく、学区の小学校、高校にも声をかけ、積極的に授業公開をして広く意見を聞きながら、授業改善に努めている。

学区の小学校と連携した取組として、学習習慣や生活習慣の在り方を検討し、保護者向けのチラシ「八浜中学校区の子どもたちへ　身につけてほしい３つのポイント」を作成し、学区の小中学生の全保護者に配付し、学習習慣や生活習慣の見直しを呼びかけた。また、学区全体で、「ノーメディア・デイ」を実施し、時間の使い方についても考える機会を設けた。この取組は初めての試みであったが、多くの児童生徒が積極的に取り組み、事後アンケートの結果からも、前向きな感想や反省が寄せられ、大きな成果が得られた。「ノーメディア・デイ」の取組は、今後も小学校と連携しながら計画的に実施する予定である。

放課後には、学習がやや苦手な生徒を対象にしたアフタースクールを計画的に実施している。定期考査の発表期間中を中心に年間４０時間を各学年に割り振り、５教科の基礎的な内容の学習を毎回１時間、実施している。教科担任の他に担当の非常勤講師、さらに学年団教員が指導に当たり、少人数指導で効果を上げている。

○現在までの取組の成果と課題

１　成果

「教えて考えさせる授業」の実践により、教員が同じ視点で授業改革に取り組み始め、組織的に授業改善が進みつつあり、生徒も落ち着いた態度で授業に臨むことができるようになってきた。特に、授業の目標を分かりやすく示し、授業の最後には生徒が自己評価を行うことにより、授業で学習した内容について生徒がしっかり振り返ることができるようになってきており、生徒が真剣に授業に取り組むようになった。

また、小学校と連携した「ノーメディア・デイ」の取組等により、学区全体の児童生徒・保護者を巻き込むことで、大きな成果が現れることが期待できる。今後も継続して実施していきたいと考えている。

２　課題

授業改善の取組や小学校と連携した取組はまだ始まったばかりであり、定期的に計画の見直しを行いつつ、継続的に実施していく必要がある。そのためには、教職員の組織の在り方を検討したり、研究の中核となる教員を育成したりすることが今後の課題である。

○取組の継続・発展の要因

これまでの取組が更に発展し、継続していくためには、取り組んでいる教員が効果を実感することが最も重要だと考える。授業の中で、生徒がよく分かったと答えたり、生き生きと活動する姿を見ることができたりすれば、教員も意欲が湧くはずである。そのためには、教員が組織的に研究を進めることができるような環境づくりが大切だと考える。

○管理職・中核教員等のアクション

校長・教頭は、学力向上のための具体的な手立てとして、これまで取り組んできた「教えて考えさせる授業」の取組を更に進めるため、外部講師を招聘して行う校内研修の実施や、先進校が実施する研究会やセミナー等への積極的な参加を促す。さらに、授業に必要な教材等を購入する予算の確保に努める。

中核となる教員は、積極的に研修に努め、自己の授業改善を図るとともに、研修で得た成果を校内研修等で他の教員に伝え、特に若い教員に対して指導を行うことが重要であると考える。

○その他の資料・写真等

校内研究授業の様子（社会科）

授業改革協力員の研究授業の様子（ 理科）